

新たな歴史館の創造をめざして ～ 長野県立歴史館の使命と目標 ～

令和元年度(2019年度)評価表

評価の区分	A 目標を上回る成果をあげた	B ほぼ目標は達成した
	C 目標には及ばなかった	D 目標には遠く及ばなかった

使命	基本目標	取組	令和元年度(2019年度) 主な事業/目標値	令和元年度(2019年度) 達成値	自己評価	利用者評価(アンケートで寄せられた意見)・備考	協議会評価
長野県民の歴史遺産を子孫に継承するための取組をします	埋蔵文化財、文献史料・歴史資料等を収集し、調査研究を行います	取組	○ R2年度企画展の資料調査 ・企画展「醸造展」「弥生展」「中村不折展」(仮)の基本構想の作成 ・上記企画展の資料調査の実施	・R2年度企画展「醸造展」(仮)、「弥生展」(仮)の資料調査を実施。具体的な実施設計の作成 ・「中村不折展」(仮)の資料調査を実施。基本構想・基本設計の作成、	A		
			○ R1年度巡回展「長野県の考古学」、R2年度春季展 ・「長野県の考古学」の資料調査、共催機関とテーマや広報等の打合せ(5回程度) ・各連携機関と企画・テーマをすりあわせ、広報等を充実、打合せは各連携機関とも年5回程度実施 ・巡回展の開催については、国宝土偶展があるため歴史館での開催及び2他館での開催 ・1ヶ月で来館者約1,000人	・市町村教育委員会、埋蔵文化財センターと共同調査を進めるとともに、テーマ展示を「弥生時代」とし、学史的に貴重かつ最新資料を展示また各館にて地域展示を実施 歴史館 3月16日～6月23日(87日間:12,975人) 中信会場 7月27日～9月16日(46日間:1,545人) 南信会場 10月5日～11月10日(32日間:2,449人)	A	・テーマ展示は好評だった。 ・各会場とも、地域資料を活用した展示を行い好評を得た。	
			○ 文献史料の収集・整理・保存 ・行政文書、県報、行政資料 新規収集資料(年間約数百冊)の選別・収集・整理 県報、行政資料の公開(年間約300冊) 公開・非公開判定、金属除去など装備整理 未整理行政文書の整理	◇ 行政文書、県報、行政資料 ・新規収集資料の選別・収集・整理 行政簿冊 50冊、県報 119件、行政資料 145冊 ・行政文書の公開非公開判定の実施 578冊 ・未整理現代史料等の整理 原伊市収集資料 ほか 19件の現代史料の整理 ・保存 長野県史写真フィルム(35mm)の洗浄・複製製作 継続事業 小県・諏訪郡 486本	A		
			・古文書 新規史料の収集(前年度約3500点) 未整理資料の整理を進める 年度当初未整理史料 約5万点	◇ 古文書 ・新規史料の収集 27件 約19,000点(概数分含む) ・未整理史料の整理 29件 35,619点 ・公開 25件 44,675点			
			○ 考古資料の保存処理 ・収納木製品の保存処理(3,000ポイント)(PEG槽へ投入、濃度アップ、各1回の作業を1ポイント扱いとして換算) ＝ポイントアップの要因: ボランティア動員増加、臨時職員補充 ・写真資料の保存(フィルムのデジタルデータ化)は35ミリポジフィルム年間7,000枚を実施 ・金属製品に関しては依頼に対応	・収納木製品の保存処理 5,112ポイント ・赤外線観察＝3件(7点) X線透過撮影観察＝4件(212点) 依頼100%対応 ・写真資料の保存(デジタル化) 7,000枚 高画質のデジタル化の仕様を見直す ・金属製品の依頼対応 100%対応	A		
			○ 館設定研究テーマの調査・研究 ・市町村教育委員会と城郭・城下町研究会を年1回実施、県外研究者と意見交換	・「長野県近世城郭・城下町研究会」を1回開催 2月21日 上田城石垣、石材採取場の見学と調査研究成果の発表	B	・研究会メンバーからは、県内外の様々な研究者を招聘しての研究会開催の要望が多い。 ・研究会の継続等についてメンバーにアンケート調査を実施(～3月末締め切り) ※県外研究者との意見交換を実施することができなかった	
			・市町村教育委員会と黒曜石研究会を実施 テーマ「信州黒曜石文化の研究」 回数 2回 内容 黒曜石産地とそれに関わる遺跡の実態説明、成果展示R1年以降、関連市町村での展示	・「信州黒曜石文化研究会」を1回開催(11月22日) 歴史館で開催 県教育委員会主催の黒曜石連絡協議会と共催で実施 第2回考古学セミナーにて黒曜石の講演会を計画し実施	B	・黒曜石の分析データ集積が必要との意見があった。 来年度、その仕組みづくりを検討予定。 ※内容的には目標通りだったが、2回予定した研究会が1回しか開催できなかった。	
			・市町村教育委員会・博物館等と土偶研究会を実施 テーマ「長野県の土偶」 回数 研究会2回と、全国「土偶研究会」と共催のシンポジウム 内容 1990年代に行った県内土偶のデータベースの再構築と、県内出土土偶の特色の抽出	・「長野県の土偶研究会」を2回開催(8月8日、1月7日) 市町村教委・博物館、埋文センターと共同による ・報告会「長野県内出土の土偶をめぐって」を開催(1月18日) ・全国「土偶研究会」と共催のシンポジウム開催(1月19日) ・調査資料集「長野県内出土土偶一覧」・「同関係文献一覧」・「同図版」を作成	A	・研究の成果を閉館25周年記念特別企画展「国宝土偶」、「中部高地の土偶」に結びつけることができた。 ・作成した調査資料集「長野県内出土土偶一覧」・「同関係文献一覧」・「同図版」はデジタルデータで発信する。	
			○ 史資料の保存等に関する市町村への協力・支援 ・依頼事項の90%以上	・長野市や千曲市など千曲川流域を中心とする台風19号の被災資料の保存についての問い合わせに応じた。	A		
			○ 文献史料保存活用講習会の開催 ・開催3回 参加者60人	・3回開催 参加者数 130人 ・満足度 100%	A	・地域の流出文書をどう残してゆかか。横の連携、縦の連携がより重要と感じた。 ・寄贈資料の整理・保存し、死蔵させないよう努めてゆくことの重要性を感じました。 ・質の高い講習会に驚き大いに参考になった。 遠方から参加して大変良かった。	
○ 考古資料保存処理講習会の開催 ・開催1回 参加者20人	・考古資料保存処理講習会:12月18日開催＝参加者数39人 ＝テーマ:「土器・土製品と石造物の保存修復と保管環境」。 方法:参加者が持参した資料を中心に実習 満足度100%	A	・土器や土製品等、持参した資料を用いた実践研修であり、参加者数も倍増し、高い評価を得た。				
○ 防災・災害の対応 ・事例研究や他県の体制・対応を参考に研究を推進	・台風19号により被災した資料のレスキューに参加 ・長野市立博物館への保存処理方法の支援を行い、職員が交代で出向いて水損資料の応急措置を行った。また、県博協及び県史料協の加盟団体への応急措置の支援を要請した。	A					
未来を映す歴史知識の泉としての役割を果たします	長野県の歴史を明らかにし、その成果を普及します	取組	○ 常設展の工夫 ・関係機関との連携 信州大学工学部、繊維学部 ・観覧者数 前年の105%目標(昨年は1か月半の休館あり25周年記念企画に合わせ増加が見込まれる) ・満足度 80%	・信大工学部と連携し、「可視化ID多言語コンテンツツガイドシステム」(ピーコンガイド)の常設展示室における実証実験 ・「長野県の平成史」パネル展示企画、調査作成開始(R2年度早期に展示) ・観覧者数 50,253人(H30 36,649人、前年度比 137.1%) 満足度 92.8%	A	・ボランティアや学芸員による丁寧な展示解説が好評であった。 ・中世・戦国時代、戦中 戦後から現代の展示を増やしてほしい、などの要望が多かった。	
			○ 企画展の開催 ・観覧者数 前年比105%増 ・満足度 80%	・観覧者数 43,813人(H30度26,848人 前年度比163.2%) 満足度 93.66%(H30 91.72%)		・長野県の考古学として、テーマ展に特化したことで、見学者からわかりやすいとの評価を得た。 ・巡回にあたり美術専用車を使用して欲しいとの要望が借用先からあった。	
			25周年記念企画 ・収蔵品展「長野県立歴史館の名品」(7月6日～8月18日) ・秋季企画展「戦国小笠原三代」(9月7日～10月14日) ・特別企画展「土偶展」 国宝土偶(10月26日～11月10日) 中部高地の土偶(11月23日～2月2日)	※企画展等別 ・春季展「長野県の考古学」(3/16～6/23) 87日 12,975人 満足度 92% ・春季展「長野県の考古学」中信会場(7/27～9/16) 46日 1,545人 ・春季展「長野県の考古学」南信会場(10/5～11/10) 32日 2,449人	A	・あまり取り上げられることのなかった小笠原氏に焦点をあてた展示は大変興味があり、一堂に会した資料の多さにも驚きました。 ・小笠原氏は地味な一族と思っていたが見方が変わった。貴重な多くの資料でいい展示でした。 ・国宝土偶五体が一堂に会する素晴らしい機会。千曲市でこのような展示が見られて夢のよう。 ・京都、東京の展示にも行きましたが、今回の展示の方が間近でゆっくり何度も見れて新しい発見も多く満足度では一番です。 ・見やすい高さ、照明と展示方法で形状・質感がよくわかった。 ・中部高地のたくさんの土偶がみられてよかった。 解説が丁寧で所々にある具体的な説明がよかった。	
			巡回展 ・「長野県の遺跡」 ・歴史館会場(3月16日～6月23日) ・塩尻会場(7月27日～9月16日) ・飯田会場(10月5日～11月10日)	・開館25周年記念収蔵品展「長野県立歴史館たか」(7月6日～8月18日) 39日 3,840人 満足度91.22% ・開館25周年記念秋季企画展「戦国小笠原三代」(9月7日～10月14日) 33日 5,049人 満足度90.685% ・開館25周年記念特別企画展「国宝土偶」(10月26日～11月10日) 16日 15,041人 満足度 95.03% ・開館25周年記念特別企画展「中部高地の土偶」(11月23日～2月2日) 57日 4,127人 満足度 80.0% ・春季展「長野県の考古学」(3/25～3/31) 6日 240人			
			○ ミニ展示の開催 ・開館25周年の歩み 他は、各企画展の一部として展示する(旧映像情報室)	・「平成とともに歩んだ歴史館」(ポスター展):50日間開催＝1,121人 ・「屋代に田んぼが作られるまで」:6日間開催＝240人	A	・企画展へつながる導入効果もみられる。 ・学校、団体見学の際の、解説ポイントとしても利用。	
○ (新)親子歴史ふれあいコーナーの設置準備 ・館内で基本構想について再考、取りまとめ	・基本構想、今後のスケジュール、外部検討委員会等について館内で検討を進めることができた。	B	※基本構想の構築が充分なものとならなかった。				
県民の学習の支援	取組	○ 古文書講座の開催 ・開催25回 受講者900人 ・満足度 80%	・25回開催 受講者 延べ863人 満足度 93.6%	A	・古文書を学ぶきっかけになった。 ・意欲がわく講義だった。		
		○ ティーンズ古文書講座の開催 ・開催4回 受講者20人 ・満足度 80%	・新型コロナウイルス感染拡大防止のため、3月に実施の予定であった講座を中止とした。	評価なし			

基本目標	取組	令和元年度(2019年度) 主な事業/目標値	令和元年度(2019年度) 達成値	自己評価	利用者評価 (アンケートで寄せられた意見)・備考	協議会評価	
未来を映す歴史知識の泉としての役割を果たします	県民の生涯学習を支援します	○考古学講座の開催、探訪会の実施 ・講座 開催3回 受講者300人 ・探訪会 実施1回 参加者40人	・考古学講座: テーマ『匠の技について』 3回開催 受講者数214人 満足度 100% ・探訪会 1回 参加者数32人 満足度 100%	A	・匠の技は時代のニーズにあった。 ・遺跡探訪会は、土偶展の学習もかねて、新潟県の縄文遺跡を扱う博物館の見学をおこなった点で好評を得た。		
		○信州学講座の開催 ・開催9回 受講者900人・満足度 80% (講堂改修工事完了により、一昨年の目標に戻す)	・県立歴史館の信州学講座 7回計画 5回開催 受講者3,728人 満足度 92% (新型コロナウイルス感染拡大防止のため2回中止)	A	・研究者の視点からの内容が新鮮、 講座内容のタイミングが良い。		
		○ブックレットの刊行 ・「中部高地の土偶」に刊行に向けた取組	・調査資料集『長野県内出土土偶一覧』『同関係文献一覧』『同図版』を作成。デジタルデータでR2年度発信予定。	B	※ブックレットとしての刊行を目標としていたが、デジタルデータでの配信に目標を変更		
		○信州学季刊誌の刊行 ・第3巻刊行	・信州学 第3巻刊行	A			
		○関係機関との連携 ・考古学セミナー(県考古学会共催) 2回 ・近世史セミナー(信濃史学会、信州近世史セミナー共催) 1回	・第1回考古学セミナー: 6月16日開催=82人 ・第2回考古学セミナー: 12月1日開催=77人 ・近世史セミナー 12月8日開催(受講者数33人)	A	・長野県考古学会との共催で、中世城郭及び黒曜石、震災について専門的な立場の研究者に講演いただき好評。 ・「近世の災害とその復興」をテーマに水害・火災・震災の立場からの報告がなされ好評であった。		
		・歴史館パートナーの日 年2回の開催	・「KOAの日」開催 11月30日(土) 当日入館者157人(関係者52人) ・「千曲市の日」10月30日(水) 711人	A	・子どもにあわせた解説、体験などが、子どもはじめ保護者にも好評。 ・企業はもとより、歴史館の存在を知るにも良い機会。		
		・県博物館協議会HP運用。一般アクセス数年間40,000件 加盟館のイベントを発信する	・県博物館協議会HPアクセス件数 56,835件 (H30年度 43,345件)				
		○出前講座等の開催 ・「信州学出前講座」として、上田市・箕輪町・諏訪市・安曇野市との連携した講座を開催 4回、250人 ・「長野県の考古学2019」開催に併せた講演会等の実施 3回(本館・塩尻・飯田) ・上記以外の出前講座 要請の80%以上	・信州学出前講座 4回開講 聴講者数計299人 (上田市56人、箕輪町72人、諏訪市45人、安曇野市70人) ・連携講座 ・長野県立歴史館 81人 ・塩尻市エンパーク84人 ・飯田市美術博物館 台風19号により中止 ・要請数35件 実施数35件(聴講者数2940人) 100%実施	A	・いろいろな話題、地域の話が聞けてうれしい。 毎年楽しみにしている。 ・県内他地域の話も勉強になる。		
		学校教育を支援します	○効果的な展示利用方法の開発 ・常設展示用学習シート(小学校)を活用したプログラムの提供	・ワークシート(歴史館まなび隊・学習シート) 利用校126校 (利用率51.4%) 平成30年度136校(利用率53.86%)	B	※有効に活用できたが、利用校数、利用率が昨年を下回った。	
			○学校見学時の展示解説の実施 ・希望校の100%実施	・希望校受入率 100% 実施学校数247校(但し、雨天時のみの学校は含まない)	A	・できる限り各学校の要望を聞く姿勢が好評。 例年訪れる学校多数。	
○学校見学時のバックヤード探検の実施 ・希望校の90%以上の受入	・希望校受入率 90.2% 実施学校数185校 (見学時間重複等でお断りした学校数20校、集中日は電話問い合わせ段階でお断りする例がある)		A	・非常に好評であり、勉強になったとの感想多数。			
○博物館実習・職場体験学習の受入 ・希望者の90%以上の受入	・希望者受入率 91% 博物館実習6人、県庁インターンシップ4人 中・高生職場体験 11校30人(延べ73人) 社会人異業種体験 2校2名(延べ4人)		A	・博物館、学芸員業務の多様さを知ることができたとともに博物館があらためて好きになった。			
○教員研修への協力、実施 ・希望者の100%の受入	・希望者受入率 100% 教材研究研修(県総合教育センター) 16人 免許更新講習(信州大学) 3回3日間 計135人		A	・歴史館はもとより、地域の博物館利用にもつながる活動である。			
○出前授業(講座)の実施 ・要請の100%の実施	・15回 延べ参加者708人 要請の100%実施		A	・小、中、高、大すべてでの実績あり。			
○おでかけ歴史館事業の実施 ・伊那・木曾地域に加え、諏訪地域も対象に追加 10回開催	・5校8学級、公民館2館3講座 191人に実施 (新型コロナウイルスの影響で3月予定の3校8学級148名中止) ・お出かけ歴史館事業広報のための学校訪問 (新型コロナウイルスの影響で3月予定の2校訪問中止)		B	・低学年児童も対象であったが、体験を通して、原始の生活を想像する姿がみられた。 ※よりPRIに努め、事業の認知度を上げて実施数の増加に努めたい。			
歴史情報を提供します	○史資料の閲覧 ・整理が終了した古文書等の公開を進め、公開情報をホームページ、ブログ等に掲載、周知	・整理が終了した古文書等の公開 整理を終えた古文書群は直ちに公開手続きを取り、ホームページ上でその都度データ更新を実施 (公開件数 44,675点、公開度100%) 古文書公開ブログ 9回更新、新資料の情報を積極的に公開	A				
	○ホームページによる情報提供 ・アクセス数(年間 72,000件) ・ホームページ上で、絵図地図・企画展等の情報を提供	・アクセス数 107,879件(平成30年度76,363件 前年度比141.3%) ・ホームページの全面リニューアル(R2年4月1日更新)	A				
	○歴史館情報のマスコミへの周知 ・信濃毎日新聞社「しなの歴史再現」への連載 ・企画展、講座等の情報発信(新聞、情報誌等に掲載)	・コラムしなの歴史再見(信毎) 42回 ・新聞イベント欄、新聞有料広告、雑誌・情報誌、ラジオ、ケーブルテレビ、有線放送等で情報発信	A	・信毎コラムで企画展以外の内容を扱うようになり、館全体のアピールにつながっている。			
	○ケーブルテレビによる主催講座の発信 ・提供講座数 7回(信州学講座)	・提携講座5回で実施(信州学講座7回計画5回実施) (新型コロナウイルス感染拡大防止のため2回中止)	A				
楽しむ場・憩いの場・交流の場としての役割を果たします	○体験イベントの開催 ・館内及び出前イベント(埋文センターチャレンジ教室など)を実施 (各回100人以上の体験を目標)	・館内 5回実施 5月5日 「歴史館でこどもの日」(478人) 総合情報課 勾玉づくり・プラ板づくり 176人 考古資料課 縄文人になって遊ぼう・バックヤード探検298人 8月4日 「歴史館で夏休み」(588人) 総合情報課 勾玉づくり・プラ板づくり 昔話ビデオ 344人 考古資料課 縄文人になって遊ぼう・バックヤード探検244人 (11月3日 「森將軍塚まつり」 台風被害のため中止) 11月17日 「子育て家庭優待日」 ときmo'キ作り 73人 11月30日 「KOAの日」関連イベント 縄文風のリスを作ろう バックヤード探検 52人 1月13日 特別展「中部高地の土偶」関連イベント お面づくり 着ぐるみと撮影 142人 ・館外 1回実施 8月2日 「埋文チャレンジ教室」 ドッジローのペーパークラフト 60人	A	・小さい子供でも取り組める、簡単に素敵なものができる と高評価の声をあり。 ・リピーターも多い。			
	○親子映画会の開催 ・参加者 年間 600人	(3月計画していたが、新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止)	評価なし				
	○古文書愛好会の育成と活動支援 ・参加者数 500人(延べ) ・古文書解説文1冊を刊行	・参加者数 延べ 703人 ※活動内容 ・館蔵文書を読む会 8回開催 参加者数 42人(延べ251人) ・古文書探訪会 参加者数 28人 ・古文書演習 夏季 5回 参加者数 35人(延べ 98人) 冬季 16回 参加者数 32人(延べ 326人)	A				
県民が参画した館の運営を進めます	○運営サポートボランティアの育成 ・展示解説・体験ボランティアの募集・養成を行い、イベント運営への活用を推進 ・常設展解説等館運営ボランティアの積極的な活用	・募集 歴史館HP、チラシ(千曲市回覧、当館設置) ・新規登録者8人 ・ボランティアルームの設置、利用開始 ・解説ボランティア 日曜解説 毎日曜日と祝日と、学校・団体への解説 解説延数214回、利用者数1,418人 団体解説 8団体延数14回実施 ・体験ボランティア(延数90人) こどもの日、夏休み、国土地偶展、クリスマスリース作り ・作業ボランティア(184回) 木器処理作業(65回)・文献整理作業(119回)	A	・利用者にも好評であるが、ボランティアにとっても、満足感や喜びが持てる活動となっている。			
	○利用者アンケートの活用 ・来館者アンケートの意見の反映	・常設展、企画展、講演会等について、来館者のアンケートによる満足度を自己評価の参考にし、反省をすることができた。 ・アンケートの記載されていた意見を反映し、プロジェクターの取り換え、修理を実施	B	・講演会のプロジェクター画像が暗く見にくい。 ・アンケート回答率(常設展)1.36%(前年度1.49%) ※アンケートの回収率を上げるとともに、アンケートの意見をより反映させていきたい。			